

## ☆紀北町立赤羽中学校区の取組

### ◆事業概要



#### 1 中学校区の現状と課題

赤羽中学校区では、少子高齢化・過疎化が進行する中、豊かな自然や人々との深いつながりを実感しながら素朴で情のある子どもたちが多く育っています。しかし、社会情勢等の影響により、生活の基盤が不安定さを増す中で、一部には、自己効力感や自尊感情が高められず、学習に対して意欲的に取り組めなかったり、生活圏内に大学や多様な職場がないことから、自己のキャリアビジョンを描くことができず、将来は自分が育った地域に住みたくないと考えたりする子どもの姿があります。

そこで、子ども支援ネットワークでは、地域の大人が積極的に子どもに係わり、「心から大切に思っていること」や「一人ひとりに期待していること」等の思いを日々の活動を通じて伝え、大人からの愛情や理解されているということを実感できるようにすることが大切であると考えました。そして、活動の実施に際しては、①赤羽中学校区は農山村地域で多雨地域あること、②世界遺産熊野古道の「ツツラト峠」があること、③高齢者が多いこと等、地域の特色を踏まえて取り組んでいくことを確認しました。

#### 2 課題解決のための主な取組

##### (1) 赤羽中学校区防災教室（3校合同）

防災教室は、事前に学習した中学生が防災フィルムの貼り方等を住民に披露し、「要請があれば、地域に出向きお手伝いします」と参加者に呼びかける場を設定しました。その他、災害時炊き出し体験では、子どもたちが、多くの地域ボランティアから、あたたかい支援や指導を受けて実践的な学習に取り組むことができました。



防災フィルム貼り実演の様子

##### (2) ツツラト峠モミジまつり（3校合同）

熊野古道ツツラト峠は、世界遺産登録以前より、地域住民等が整備し大切に保護してきた場所です。子どもたちが、そうした思いを知り、地域の伝統や文化の継承者として主体的に活動することを通じて、地域に対する理解や愛着を深めたいという願いを持って、活動を実施しました。事前に、子どもとツツラト峠を守る会等の地域住民と一緒に峠の清掃活動（整備）を行いました。また、モミジまつりで子どもたちが主役となる「ふれあいコンサート」に向けては、地域住民の支援のもと、演奏の練習をしたり、3校が合同した演奏会を実施したりする等、継続的に取り組み、当日の「ふれあいコンサート」をより良いものとする事ができたと同時に、子どもたちの地域への愛着や自信を高めることができました。



ふれあいコンサートの様子

##### (3) 赤羽中学校区地域人権フォーラム（3校合同）

子どもたちが、地域の大人の多様な価値観や経験、生き様等と豊かに出会いながら、励まされ、思いを伝え合える力が高められるように、これまで、中学生と小学6年生で実施していた「子ども人権フォーラム」を、赤羽中学校区全児童生徒を対象に地域ぐるみで実施する「地域人権フォーラム」として開催しました。

分散会では、「地域のすべての人々が、安心していきいきと暮らせる地域づくり」をテーマに、昔の遊び体験や「すごろくトーク」等による話し合い活動、意見交換を行いました。そして、全体会では、それぞれ実施したグループ別活動の報告の後、2人のネットワーク委員が、「子どもは、一人ひとりがかけがえのない大切な存在であることを実感してほしい」「この素晴らしい地域を大切にす気持ちを持ってほしい」という願いを語りました。



話し合い活動の様子

### ◆実践を振り返って

赤羽中学校区の地域住民等は、子どもとの触れ合いや係わりを心から喜び、一緒になって活動できることに対して感謝しています。とりわけ、中学生に対しては、地域の若者として期待し、頼りにしています。

本実践により、大人が子どもを思う気持ちを伝えることができたことで、子どもたちは自信を深め、自尊感情や学習意欲を高めることができました。また、住民の間には、「子どもに対して、大人の積極的な係わりが必要である」という考え方が定着しつつあります。

今後、地域を取り巻く状況は、さらに厳しい局面をむかえることも予想されます。より多様な主体との協働を促進しながら、子どもの課題解決のために取組や活動の充実・発展を図っていきたくと考えています。